

外国人労働者と農業の現場

－技能実習制度・特定技能制度と農業－

小勝負 若葉

日本では様々な産業で労働力が不足しており、農業の分野でも基幹的農業従事者の減少に対して新規就農者はあまり増えず、それに伴って高齢化が進んでいる。

一方、日本における外国人労働者の人数は増加しており、農業においても令和5年末には約5,4000人の外国人労働者が働き、産地を支えている。

多くの外国人の方が利用する技能実習制度や特定技能制度は問題点が多いことから国内外から批判を受けてきた。本研究では、季節労働によって必要な労働力が偏る農業において通年雇用をする技能実習制度と特定技能制度がどのように実施され、失踪の問題や転職の制限、借金の問題などにどう対応しているのかを調査した。そして、技能実習制度に代わり導入される育成就労制度がどのように実施されていくのか、外国人労働者が今後増加しなくなるという予測が予測されていることも鑑みて考察した。

日本政府が外国人労働者受入の増加を見込んでいる一方、失踪者の問題や、働きに来る外国人の国との賃金格差が縮小し、外国人労働者が増加しなくなる点などを考えると、制度の改善が必要となっていることは明らかである。農業においては労働力の省力化と並行して働きやすい職場を作ることが必要である。育成就労制度の今後を続けて調査する。